

| | | |
|--|-------|-------------------|
| <h1 style="font-size: 48px; margin: 0;">きずな</h1> <h2 style="font-size: 24px; margin: 0;">第38号</h2> <p style="font-size: 18px; margin: 0;">神奈川県障害者スポーツ指導者協議会 会報</p> | 発行 | 神奈川県障害者スポーツ指導者協議会 |
| | 発行責任者 | 会長 牛島 秀保 |
| | 編集責任者 | 広報委員長 益田 朋子 |
| | 印刷所 | 貴峯荘ワークピア印刷科 |



年頭のご挨拶

会長 牛島 秀保

皆様におかれましては、新たな
思いを胸に輝かしい新春をお迎え
のこととお慶び申し上げますと
ともに、当協議会に対する日頃のご
尽力に厚く感謝申し上げます。

1年の計は元旦に有りとお申しますが、皆様は年頭にあたり何か目標をお立てになりましたでしょうか。どんなに小さなことであれ、目標があると無いでは日々の過ごし方も違って来ると思います。

さて、当協議会の目標を定めるにあたり参考となるデータとして、昨年の全国レベルの障害者スポーツ指導員アンケート結果があります。このアンケートの神奈川県の回収率は25.6%でしたが、お陰様で全国的にはトップレベルの回収率でした。御協力いただきありがとうございます。

このアンケートの項目中、「資格取得の目的」については「障害者の競技スポーツに関心があった」と「障害者スポーツに関する知識や技術を高めたかった」が最も多く半

数人がこう回答しています。

また、「資格を取得して良かったこと」については「様々な人との出会いが増えた」が第1位で約6割の人がこう回答しています。

さらに、「指導の際の不安要因」として、「障害に起因する配慮すべき事柄」を約6割の人があげており、今後受講したい研修会として「技術指導方法」を約6割、「緊急時の対処方法」を約5割の人が望んでいます。

こうしたことから、当協議会の目標としては、会員の皆様の資格取得時の障害者スポーツへの思いを念頭に、会員相互はもとより様々な出会いを大切にしながら、指導の際の不安を出来るだけ軽減すべく、各種障害の特徴についてや指導方法、緊急時の対応方法の研修などを進めてまいりたいと思います。

なお、ご承知のとおり昨年10月に障害者虐待防止法（正式名称は「障害者虐待の防止、障害者の養護者に対する支援等に関する法律」）が施行されましたので、私たちもこのことを念頭に支援や指導にあたって行きたいと思ひます。

新たな1年もどうぞ宜しくお願い致します。

第12回 全国障害者スポーツ大会「きずな清流大会」

神奈川県選手団コーチとして 山口 俊彦

神奈川県選手団は陸上競技14名、水泳3名、卓球5名、聴覚障害バレーボール女子9名の各選手と役員・コーチ29名の計60名を派遣し、総獲得メダル数29個と過去最高の成績を取ることができました。獲得メダルの内訳は金13個、銀6個、銅10個、さらには大会記録も一つ出すなど今年の東京大会に繋がる結果となりました。

このような成績を残せたのは、選手団としての強化練習が質・量ともに比較的順調に行えたことに加え、選手各人が練習段階から試合直前に至るまでモチベーションを維持でき、また目標を見失わずにいられたことが大きかったと思います。換言すれば、大会期間中、選手の生活やメンタル面のケアが比較的上手く行った結果とも言えるのではないのでしょうか。それに加えて、各選手の日頃の練習努力と潜在能力の高さが大きく寄与したとも考えております。

今回の成績は、これまで先輩方が取り組んできた諸施策が関花し始めた結果であります。今後は、現状をさらに進化させるべく、選手・指導者がより前向きになれるような体制構築が望まれ、それが成されることで神奈川県の障害者スポーツの底上げ、ひいては全国大会での今回を超える好成绩へ繋がるものと期待致します。

神奈川県選手団
陸上：石川 英俊 内野 慎吾 山口 俊彦
赤坂美保子 笹川 良夫
水泳：加藤 明成 崎山あさみ

相模原市選手団コーチとしての体験報告

～あってはならない競技上の事故～ 塩澤 哲夫

私が担当した選手がエントリーした50m競争は、ホームストレートで行われた。音源が隣りスタートして30m程の所でハンドマイクからの「左へ、左へ」の指示に従い左へ向きを変えようとしたとき右側の人に接触し転倒した。接触した人は、競技役員的女性ではなく男性のようだった。その時右側では走り遅れが競技が行われていた。

転倒した際、右足をひねったようであるが立ち上がり走りゴールした。介助者である私は、競技終了後待機所へ急ぎ選手に足の様子を伺い、役員に事いす借用品を依頼し車いすで救護所へ向かった。医師による問診・処置の結果、湿布をして弾性包帯で固定した対応となる。競技結果は第3位であるが、救護所での治療のため表彰式には間に合わず別個で銅メダルを授与される。その後、選手団控所に戻り間もなくして原部がさらに腫れ痛みも強く感じることとなるので救護所へ行き、氷をビニール袋に入れてもらい患部を冷やす。

その間、観客席で応援していた相模原市選手団引率責任者およびヘッドコーチは、競技中の状況経過から、運営に関して審判となる音源のコース上の位置、および装置と音色、方向の指示方法などに関する疑問点があり、大会競技本部に抗議申請をして協議を重ねたが、競技審判側はミス認めなかった。坂原県陸上競技会に対して上訴という形で最終抗議まで行った結果、再レースを実施して結果を修正するという結論に至ったが、選手の怪我の状態から再レースは辞退した。その後、大会競技本部より連絡があり、日本障害者スポーツ協会からの指示で、再レースを辞退するのであれば棄権扱いとな

り、メダルを返還するよう連絡があった。「メダルを持ち帰りたいのであれば、上訴した件を取り下げることによりメダルを返還する必要はなくなる」と言われた。明らかに競技審判に落ち度があったにもかかわらず、そのような条件を提示してきたことに納得がいかず、選手を交えて話し合いを行った結果、選手としても「今後の大会で同じような事故は起こって欲しくないの、メダルは返還します。」と言うことだったので、《メダル返還・棄権》という連絡を大会競技本部に申し出た。

音源に関しては選手も大変気にしており、大会前および公開練習時に何度もなく確認したが、明確な返答が得られず本番を迎えた。競技後にわかったが、音源はハンドマイクに収納された音ではなくハンドホイッスルを使用していた。音源の位置が観客席側寄りで、転倒した時に観客席に居たヘッドコーチの周辺では「あれはひどいよなあ。」と言う声が聞こえており、競技役員等の対応に疑問があり納得できない結果となった。

なお、怪我の状況を正しく把握するため市内の病院を受診しレントゲン撮影の結果、捻挫との診断で骨折はまぬがれたが、歩行は困難ため閉会式には出ずに宿泊ホテルに戻り患部を冷やして安静を保った。選手にとっては残念な大会となった。

神奈川県の大大会では、特殊な競技においては当協議会の指導者と競技審判とが連携を回っているが、何よりも、当事者である選手が安心して全力を出し切って競技のできる大会の環境設定を望んでおり、その対応に努めていただきたいと思っている。

相模原市選手団
陸上：渡邊 文雄 塩澤 哲夫 渡辺八重子 杉山 五月

新春対談 第2回



司会：新年おめでとう御座います。

今日は、「推進センター」の事務局長石井様と「指導者協議会」の君嶋副会長に対談をお願い致しました。

君嶋：今日は、対談において頂き、ありがとうございます。

石井：いろいろお話しが出来る良い機会と思って、まいりましたよ。

君嶋：さっそくですが、当会員の中に、「推進センター」との係わりがよく分からないとの声がありまして……。

石井：「推進センター」は、スポーツをはじめ障害者の社会参加を進める事業を行うため県から委託によって、置かれています。そして、スポーツの行事を中心に参加してもらえる障害者スポーツ指導者を募ります。

皆さんの所へも、推進センターから「参加アンケート」を送付しています。

君嶋：会員からそのアンケートが来ないとの声も届いておりますが？

石井：初めの頃、全スポーツ指導者会員の方に参加の意向を聞き、その後も参加してくれている方、そして初級講習会の修了者に参加を聞いて、可能な方に送付しているようです。

司会：私も参加可能と、返信はがきを出しましたが、人数が沢山のことでお断りの知らせが来ました。

石井：そうですね、以前に比べ、希望者も増えてきましたね。

会員の皆さんは、指導者養成で勉強をしたのですから、是非それを生かしてもらいたいですね。

「推進センター」からの依頼のものだけでなく、地域や団体の行事に参加してその知識を活かして障害の方々のお役に立って頂きたいと思うんですよ。

君嶋：そうですね、きちんと学んだのだから、どんどん生かして経験を重ねて欲しいです。

石井：出来れば全国大会のコーチは、その様に経験を積んだ慣れた人が行ってくると安心ですね。

君嶋：そうなのですが、仕事を持っている人は休みを取る必要がある

出席者

「神奈川県障害者社会参加推進センター」 石井事務局長

「神奈川県障害者スポーツ指導者協議会」 君嶋副会長

〈司会：広報委員長 益田〉

場所 藤沢市市民会館会議室

(以下「推進センター」・「指導者協議会」に略、及び敬称略させていただきます。)

し、家に面倒を見ている人がいる場合なんか、家を何泊も空けるのは心配で、行かない等と、なかなか難しい面もあります。

石井：そうですね。5日間は長いですね。

君嶋：どうなんですか、競技をしっかりとコーチできる人が良いのか、生活介助などで、選手に安心感を与えられる人と、どちらに重きを置いて選考したらよいとお考えですか？

石井：全国大会は、一応、競技と考えていますので、しっかりとコーチ、指導できる人をと、お願いしていますが、それだけでなく、生活介助は当たり前のことと思ってましたが、改めて問われると……。

両方と、いうしかないですね～。

君嶋：前に聞いた話ですが、全国大会の競技場に行ってから選手誘導中に、体をぶつけてしまったりとか、競技コーチ以外の、選手に係わる適切な介助支援も必要と考えていますので、連携を密にしたいですね。

石井：それは本当に困りましたね。

君嶋：コーチ選考に責任を持たねばと痛感していますが、出場する選手の為に競技を見てくれる指導者と随行可能な生活介助出来る人と分けただろうですか？

石井：そうですね。事前練習に競技指導者がボランティアで来てくれるとか。

それもよいですが、なにせ予算のあることですから……。

君嶋：以前、「自立支援法」が決まったとき、神奈川県で、「神奈川県身体障害者スポーツ協会」を発展的解散をし「推進センター」へ。そのことは全国に先駆けて、障害者スポーツの一本化を図った訳ですね。

石井：そうなんですか……。私はそのころ県のどこにいたのかな……。スポーツ課にもいたんですが……。

君嶋：こうやって、今回、お会いして、いろいろな話をさせて頂き、良かったと思います。



「神奈川県障害者スポーツ指導者協議会」 君嶋副会長

石井：そうですね。

君嶋：今日は会議室ですが、ほかの設定も出
来ますか？

司会：温泉などいかがですか？

石井：いいですね、場所にも寄りますがね……。

君嶋：そういえば、石井さん「鶴巻温泉」お
近くでは……。

石井：膝のリハビリで温泉に入りましたが、
近すぎて泊まった事はありません。



「神奈川県障害者社会参加
推進センター」
石井事務局長

司会：温泉と言えば、秦野支部では毎年、箱根の「大平荘」で、研修
会をしています。私にも依頼があり、「ストレッチ」指導を行っ
たことがあります。以前、対談をお願いした秦野市の久永課長
にそれ以来「先生」と呼ばれてます。(今は部長になられてます。)

石井：ストレッチは大事ですね。筋トレもですよ、下半身の筋力落と
さないようにしないと、スポーツには……。

君嶋：ところで、石井さんは、学生時代、バレーかバスケットしてま
した？背がお高いから……。

石井：いえ、弓道を少々。

君嶋：和弓ですか？「礼に始まり、礼に終わる」ですね。

石井：はい。今は地元のソフトボールクラブで監督しています。メンバー
不足が深刻で、2つのチームを統合して、存続しています。そ
れと、前の職場では、「山登り」、箱根の山は制覇しましたよ、
登山道の無い山と、双子山を除いてね。あそこは、特別保護地
区で、入山禁止になってましてね……。

君嶋：局長さんに就任の前はどちらに？

石井：小田原の「県立生命の星・地球博物館」でした。箱根は庭ですよ。
「これがほんとの箱庭！」せっかく、近くだからと思い、登り
ました。

司会：一昨年の「富士登山」ご一緒しました。どなたか存じませず、

質問攻めをして大変失礼いたしました。

石井：いやいや、地球のことを少し、にわか知識で。富士山と箱根と
言えば、富士山のほうがより新しく、今は富士山の火山灰が心
配ですが、箱根の火山灰は、それより下の地層にあり、大昔は、
空恐ろしい山だったと思います。

司会：「歩いている足の下にダイヤモンドがあるよ、深くにたくさん、
地球に預けてあるからね。」とのお話もありましたね。(一番し
んがりを歩かれ、登りに苦勞している男性参加者に、使ってい
た登山ストックをそっと1本お貸しになり、気さくで、何気
ない優しさの長身の紳士が、事務局長と知ったのは昼食の時で
した。)

君嶋：入生田ですね、「地球博物館」。子供を連れて行きました。福祉
施設の方が店を出してました。

石井：小田原の障害者団体が運営している「ともしびショップ」です。

君嶋：一度、石井さんのご案内で、見学に行きたいですね。

話は延々と続き、会議室の時間を終了してからも、ロビーのソファ
で2次会が始まり、外が暗くなってきたので、「次は楽しいことを
……」と、余韻を残しての、解散となりました。

ご出席をいただきました、石井様、君嶋副会長、お忙しい中、お時
間を作っていただきました。ありがとうございました。



《「感謝の会」無事終了》

平成24年9月12日夜、平塚市「ホテル サンライフガーデン」に
おいて、参加者15名と少数ながら、途中、花束抱えた飛
び入りありの、華やかにして、暖かい時間が流れる、とて
も素敵な会になりました。会場にはソムリエが立ち、金粉
入りシャンパンで乾杯、フランス料理が進むうち、ビール
からワインへとグラスが空けられて行きました。協議会開
設以来会長を務められた内野新顧問へ感謝の言葉が続き、



フラッシュの風のなか、余韻を残しながらも、お開きに、
内野顧問宅まで、たくさんのプレゼントと華を積んだ総務
委員長の車が走り、準備に、当日に、お送りまで、お手
伝い下さった皆様ありがとうございました。御座いました。



24年度 第1回 研修会 報告

日時：平成24年 9月2日(日) 9:30～15:00

会場：神奈川県立体育センター 第1会議室

内容：救命救急法

講師：日本赤十字社 神奈川県ライトセンター

井上 誠剛氏 / 加藤 高明氏

新役員でスタートした、本年度初めての研修会が上記要綱で行われました。研修委員長の司会、牛島新会長の挨拶から始まり、4～5人のグループに別れ、使用する半体人形のセッティングの作業に取り掛かりました。

「もしもし！聞こえますか？」

「あなた！救急車呼んでください！」

広い会場内に各班からの声が響き



ます。昼食は三々五々、好きな所で。食堂内では、お二人の講師を中心に質問も出たりで話



がはずみました。午後の講義が終わる頃には、参加者皆、ピンク色に上気した頬で、研修内容の習得と共に、仲間の輪がつながっていました。

スポーツ指導をするにあたって、大切な「安全・安心」の為の研修が、また一つ会員の身に付いた事でしょう。

参加会員から感想文をいただきました。別紙をご覧ください。(大和市 関口貴之様 藤沢市 佐野俊一様 海老名市 杉山五月様)なお、頂いた文章は、原文のまま記載させていただいています。

委員会より

▼ 総務委員会 ▼

委員長 赤坂美保子

会員の為の総務委員会です。今年もよろしくお願いたします。前回の「きずな」発行以来、記事にあった「ホームページ開設」に関するお問い合わせが、事務局に数件きています。ご質問をしてこられた会員には、その都度、ご説明いたしましたが、ここで、全会員にお知らせいたします。世の流れに乗り、当協議会も「ホームページ」を立ち上げました。パソコンに精通している会員も、触ったことが無い会員もいらっしゃるでしょう。「パソコンが出来なきゃ、やめなきゃいけないの？」などと、疑問を持たずに安心して会員でいて下さい。これからも、分からない事、知りたい事等、何でもお問い合わせ下さい。

☆神奈川県会員の会費の件☆

県会員で会費未納の会員へのお知らせです。

同封の「振込用紙」で、早急に対応をお願いします。

▼ 広報委員会 ▼

委員長 益田 朋子

新年おめでとう御座います。『きずな新春号』が真冬にお手元に届きます。

今回、参加感想文など多く乗せることが出来ました。次の様な会員からの声が届きました。「頼られないから、書くこと出来ないよ！」→そんな事、絶対にありません。『きずな』毎号に記載の通り、常時、投稿をお待ちしております。ただし、個人等への誹謗・中傷は受け取り拒否です。どんどんお送り下さい。今年もよろしくお願致します。

当協議会のホームページを開設しました！

<http://kanagawakyougikai.web.fc2.com/>

○これまでどおり「きずな」を年2回発行し、期限の間合うお知らせは同封しますが、郵送料の予算の兼ね合いもありますので、随時ホームページにアクセスして各種研修会や催しについてのご確認をお願い致します。

○インターネットの利用出来る環境にない会員の方には誠に申し訳ありませんが、ご家族やお知り合いの方に、ホームページを開いていただき、定期的に確認をいただければと思います。なお、どうしても困難な方は総務委員会に御連絡ください。

総務委員会委員長 赤坂美保子

〒257-0042

秦野市寿町5-6

TEL: 0463-81-0913

FAX: 0463-83-0810

ご覧になりましたか？!



編集後記

今冬はいつに無く寒い日々ですが、会員の皆様ご健勝にてお過ごしのこととお喜び申し上げます。『きずな新春号』は内容盛り沢山。字の数が多くて、小さくなってしまいました。じっくり、お読み頂けたら幸いです。

平成24年度 第1回 研修会感想

大和市 関口貴之

この度、赤十字救急法短期講習会に参加させていただきました。私は今まで障害者にもスポーツにもあまり接点がありませんでしたが、今年、初級障害者スポーツ指導員を取得したことをきっかけに講習会に参加しようと思いました。講習会では、救急対応の場合、健常者も障害者も大きく対応は変わらないとの事でした。安全な場所へ移動し、適切な処置を行う。特に心配停止の場合は、1分1秒が生死を分けるため、不慣れで戸惑ってしまったり、障害者だから通常の処置で良いのだろうか？と迷ってしまうと、命を危険にさらしてしまう事になります。安全にスポーツを楽しむと言った観点からも、正しい知識と繰り返しの訓練を行うことが大切であることを、学ぶことができました。

藤沢市 佐野俊一

今回受講した心肺蘇生の手順とAEDの使用法は、3月の初級障害者スポーツ指導者の講習会に次いで2回目でした。わかったつもりでおりましたが、半分位しか覚えていませんでした。会社に勤務していたころは、毎年、防火訓練をやっていたので、消火器や消火栓の使い方は身にしみて覚えております。救命法も同様で、定期的且つ継続的に行う事によって、使えるものになっていくのではないのでしょうか。実際に、自分が心肺蘇生を行わなければいけない場面に遭遇するなんて、考えられませんが、しかし全国のどこかでは、救命措置を必要としている人がいるのも事実です。そういう場面にいつ遭遇するとも限りません。そんな時に、すぐに体が反応するようにしたいものです。2度の受講ではまだわからない事や聞いてみたいことがたくさんあります。研修会で企画していただけたら何度でも受講して身につけたいです。

海老名市 杉山五月

個人的な感想として、せっかく出会えた皆様のお名前も知りたかったので、名簿か名札があったら…と思いました。又、研修後、アンケートをとったり、総会后、この研修を入れて下さるとか、年に何回でも受けたいと思ったほどでした。「誰か助けて下さい。」の救急法講習会、大盛況。ケースから取り出した人形を組み立て、いざ一次救命処置の始まり。座学で聞いた心肺蘇生とAEDの取扱を数人ずつのグループに分かれ実技へと、「大丈夫ですか？」と声を出し、汗をかきかき、「キャー気道確保のはずが首をしめてる！」等、和やかにしばし笑いも。とにかく、過去最高の参加人数が皆必死に。本当に素晴らしい研修会に感謝。ぜひ、何回も行って欲しいです。ありがとうございました。